香りよもやま話⑧

東京農業大学生物産業学部
食品香粧学科教授
藤森　嶺

「香りの科学と美学」顛末記

東京農業大学生物産業学部は、雄大な自然が広がる北海道、オホーツクにあり、大学院まで完備している。そこに今年4月「食品香粧学科」が誕生した。香りを研究対象に掲げた学科としては日本初である。しかし、日本の大学で香りの研究が行われていなかった訳ではない。天然物有機化学は日本の科学者の得意領域でもあった。特にお茶の香りに関する研究などでは世界に誇れる業績を挙げている。しかし、学科規模で本格的に香りに取り組むことは大学として大きな決断であったと思うが、今まさにこれからの私達の生活の中で香りが果たす役割が大きいという社会的認識の高まりが後押しをしたとも言える。さらに「食香粧研究会」という企業、個人と大学を結びつける会を同時に発足させたのは、香りが生活そのものに存在するものであり、常に大学の外に向けて様々な情報を発信せねばならない。

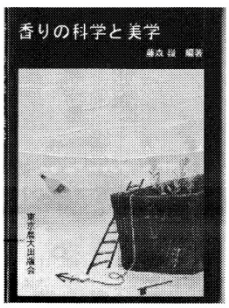
私は昨年、「香りの科学と美学」という共著の本を、私の周りにいる方々の協力を得て出版した。「科学」は、香りの官能検査や抽出法、分離法あるいは分析法などのこと、「美学」は、調香のことと考えその命名である。この本を製作する過程では自分が食品香粧学科を発足させる一員になるとは考えてもいなかったので、本の冒頭には日本の大学で香料関係の授業が消えつつあるという嘆きの言葉を入れている。このような状況下、自分にできる香りの啓発として東京農大のオープンカレッジの講座を香料会社の支援のもとに開講したが、その講座名が「香りの科学と美学」であり、この本はその教科書として編纂された。この講座は世田谷キャンパスで行われているが、今後も続けていくつもりである。オープンカレッジの受講生は、学ぶ目的意識が強いので教える側も気合が入り、楽しいものでもある。ただ、オープンカレッジでは創造的なことはなかなかできない。大学は学術の場であるとともに、教育の場であるが、何らかの新しいものを生み出していく力があるということがその大学の終局的な価値であると私は思っている。創造力がなければ伝統もできない。大学が香粧学という看板を持つということは、調香師養成所を作ろうとすることとは少し違う。食品、香粧品、日々の生活の潤い、アロマテラピーを含む医療的なことなど、日々の生活に密着した中で、「香り」というキーワードを持っていろいろな研究を展開していくことを考えていただきたい。新しい香りの発見、香り物質の組み合わせとバランスの仕組みの研究、香りの認識と神経科学、あるいは香りの精神科学的効能の解明などを行い、新鮮な提案を次々としていくことが真の実学として重要であろう。

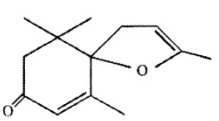
このように香りの研究をするといっても、その範囲はかなり広い。私自身は研究者の出発点がばこの香り成分の構造決定であった。前述の本の中でも8、9-デヒドロテアスピロンという香り物質を世界で最初に見つけた時のことを書いたが、それはごく微量の香気成分であった。これはのちに、ワイン、オレンジ、ハチミツ、モモと、いろいろな植物起源のものに含まれていることがわかってきた。見ず知らずの世界の研究者が、自分の見つけたものを、いろいろなものから改めて見つけ出してくれるというのはうれしい。

この本は17章からなるが、すべての章のタイトルは「香り」から始まるものにした。例えば、香りを見る、香りを創る、香りを取り出す、香りを売る、香りと料理という具合である。各章の著者はそれぞれ自分の仕事として取り組み、生の声で書ける人だけとした。その中に香りを描くと香りを謳うという風変わりなものもある。香りの科学と美学のうちの美学に相当する章でもある。「香りを描く」の著者は大手洋酒メーカーの管理職兼画家である。会社ではプレンダーでもあり研究者でもあるが、もう一つの顔は画家。私は洋酒技術研究会という洋酒業界の勉強会の運営委員同士ということから縁を作らせていただいた。この著者の文章の中に、「常に創造しつつ過去を伝統化する」というスコッチウイスキーにまつわるなかなかいい言葉が書かれている。一方、「香りを謳う」の方は、古き豊かな香りというような雰囲気を表現する意味での香りと謡曲の言葉に出てくる香りの、二つの香りのことを言っている。著者は私。師匠の人間国宝・宝生　閑先生（下懸り宝生流第12代宗家）についても能のかぐわしき香りということから書かせていただいた。この章は書いておいてよかったと思うことがやがて起った。農大オープンカレッジの受講生の若い男性から、「あの章を読んで能楽堂での能を見たくなりました。」という言葉を受けたのである。これはうれしい一瞬であった。

◇　◇　◇

東京農業大学生物産業学部食品香粧学科教授
研究テーマ：①ガスクロマトグラフィー／オルファクトメトリー法による精油成分の官能評価に関する研究②植物工場で生育した植物の香気成分に関する化学的研究
趣味：下懸り宝生流謡曲





8,9-デヒドロテアスピロン